



開二小だより

Vol. 179 第6号
平成29年10月2日発行
練馬区立開進第二小学校
校長 長田 信彦
www.kaishin2-e.nerima-tky.ed.jp

～ 泣いた赤鬼（6年生の教室にて）！ ～

校長 長田 信彦

6年生の教室で「泣いた赤鬼」の学習がありました。“特別の教科 道徳”の先行型実践授業です。開二小は、すでにご案内の通り、東京都教育委員会指定の“道徳教育推進拠点校”として、昨年度からその研究と推進に取り組んできました。その一貫としてのとっても大切な学びの場でした。開二小高学年では「全校の友達を思いやることができる子」を目指す子ども達の姿と捉え、育てたい力を「自分のよさに気付く力」と考えています。授業の初めに『「本当の友達」とはなんだろう』と考えさせていました。次に教材「泣いた赤鬼」をTV画面に大きく映し出された挿絵を頼りに、先生の朗読で学びが進んでいきます。続いて『赤鬼と青鬼は「本当の友達」といえるだろうか』と考えを深めていきました。《いえる》グループと、《いえない》グループになり、その考えを表現し合っていました。ともだちの発表を聞いて、自分の考えを振り返り、グループを変える子どもも出てきます。そして学びの最後には「本当の友達」について自分の考えを再度まとめ、自己の考えの深まりに気付いていく事が出来たようでした。この浜田広介さんの作品「泣いた赤鬼」は、小学校低学年や中学年の子ども

達でもその年齢なりに学ぶことが多くあると思っています。本文を綴っておきます。各ご家庭に於いて是非子ども達に読んで聞かせてあげてください。そして、赤鬼と青鬼の言葉や行動、それぞれの鬼の想いをもとに、そのよさや素晴らしさを家族の話合いを通して子ども達の心に深めてあげてみて下さい。きっと素敵な意見交換の場になると思います。

ある山奥に、若い赤鬼が、たった一人で、住まっていました。その赤鬼は、鬼ではありませんでしたが、優しい鬼で、人間と友達になりたいと思っていました。そこで、ある日、赤鬼は家の前に、こんな立て札を立てました。

心の優しい 鬼のお家です。
どなたでも おいでください。
おいしいお菓子が ございます。
お茶も 沸かして ございます。

次の日、木こり達が、立て札に気がつきました。

「入ってみようか。」

「いや、待て。これは、だまして食うつもりに違いない。」

これを聞くと赤鬼は、悔しくてたまりません。（とんでもないぞ。誰がだまして食うものか。馬鹿にするない。）

正直な鬼は、ひょっこりと、顔を突き出しました。

「わっ、大変だ。」

二人の木こりは、一緒になって、逃げ出しました。

（ええい、こんなもの壊してしまえ。）

赤鬼は、自分の立てた立て札を、ポキンとへ

し折りました。その時、ひょっこりと、仲間の青鬼がやってきました。

「どうしたんだい。馬鹿に手荒いことをして。君らしくもないじゃないか。」

赤鬼は、訳はこれこれしかじかと、話をしました。

「そんなことかい。そんなことなら、分けなく解決するんだよ。ねえ君、こうすりゃ簡単さ。僕が、これから麓の村におりていく。そこで、うんとこ暴れよう。」

「じよ、冗談言うな。」

と、赤鬼は、少し慌てて言いました。

「まあ、聞けよ。うんとこ暴れている最中に、ひょっこり君がやってくる。僕を押さえて、僕の頭をぼかぼか殴る。そうすれば、人間達は、初めて君を褒めたてる。そうなればしめたものだよ。安心して遊びにやってくるんだよ。」

「ふうん、うまいやり方だ。しかし、それでは君に対してすまないよ。」

赤鬼は考え込んでしまいました。

「また、思案かい。だめだよ、それじゃ。さあ、行こう。さっさとやろう。」

青鬼は、赤鬼の手を引っ張って、せき立てました。

鬼と鬼とは連れだって、山を下りていきました。麓に村がありました。村の外れに、小さな家がありました。

「いいかい。それじゃ、後からまもなく来るんだよ。」

青鬼は、囁くように言うが早いか、かけ出して、小さな家の戸口の前にやってきました。そうして、急に戸を強く蹴りつけながら、怒鳴りました。

「鬼だ。鬼だ。」

家の中では、お爺さんとお婆さんが、お昼のご飯を食べていました。開けっ放しの戸口の前に、鬼がひょっこり立ったのを見て、肝を潰して、裏の口から逃げ出しました。

青鬼は、中に入ると、皿、茶碗など、手当たり次第に手にとって、投げつけました。そこへ、若い赤鬼が、息を切らしてかけてきました。

「何処だ。何処だ。乱暴者め。」

赤鬼は、大きな声でそう言って、青鬼の首のところを、ぐいぐいと締め付けました。こつんと一つ、固い頭を打ちすえました。

「ぼかぼか、続けて殴るのさ。」

赤鬼は、そこでぼかぼか打ちました。村人達には、確かに強く赤鬼が、乱暴鬼を殴ったように見えました。

「もういい。早く逃げたまえ。」

そう赤鬼は、小さな声で言いました。」

「そんなら、そろそろ逃げようか。」

赤鬼の股をくぐって、青鬼は、逃げ出しました。慌てたようなふりをして、戸口を出ようとする時に、青鬼は、わざと額を柱の角に打ちあてる真似をしました。ところが強く打ち過ぎて、思わず声を出しました。

「いたたっ、たっ。」

赤鬼は、びっくりしました。そして、心配しながら追いかけてきました。村人達は、うしろから、あっけにとられて、鬼ども二人が走って行くのを、見ていました。

「これはどうしたことだろう。鬼は、みんな乱暴者だと思っていたのに、あの赤鬼は、まるで違う。優しい鬼だ。」

村人達は、安心しました。その日のうちに、山に出かけていきました。家の戸を、トントン軽くたたいて言いました。

「赤鬼さん、赤鬼さん、こんにちは。」

「ようこそ、ようこそ、さあどうぞ。」

こうして、鬼には人間の友達仲間が出来ました。前とは変わって赤鬼には、今は少しも寂しいことはありません。けれども、日数が経つうちに、心掛かりになるものが、一つぼつんと取り残されていることに、赤鬼は気がつきました。それは、青鬼のこと。親しい仲間の青鬼が、あの日別れて行ってから、只の一度も訪ねてこなくなりました。

「どこか、具合が悪いのかな。ひとつ、見舞いに出かけよう。」

山をいくつか、谷をいくつか越えて、渡って、赤鬼は、青鬼のいる、岩山の家に着きました。ところが、戸が堅く閉まっていた。ふと気がつく、戸の脇に張り紙がありました。

赤鬼君 人間達とは 何処までも 仲良く 付き合い合って 楽しく 暮らして 下さい。僕は しばらく 君には お目に 掛かりません。このまま 君と 付き合いを 続けて いけば 人間は 君を 疑うかも しれません。そう 考えて 僕は これから 長い 旅に 出ることに しました。けれども 僕は いつまでも 君を 忘れまい。さようなら。体を 大事にして 下さい。

何処までも 君の 友達 青鬼

赤鬼は、黙ってそれを読みました。二度も三度も読みました。戸に手をかけて、顔を押し付け、しくしくと涙を流して、泣きました。

私の家の子どもは、とっくに成人してしまいましたが、もし小学校の

低学年だったら……「赤鬼と青鬼どっちが好き。」「それはどうして。」……と聞いていることでしょう。また、中学年だったら……「赤鬼と青鬼、自分はどちらに似ているかな。」「それはどんなところかな。」……と話していると思います。いずれにせよ、友達というとっても大切な宝物をたくさんたくさん見つけて、人生を豊かに歩いて行ってほしいと願うからです。

◇ ◇ ◇
次は、道徳の話ではありませんが、とっても悲しい出来事がありました。9月第4日曜日のことです。誰だかは分かりませんが、中庭の池に体調の優れない鯉を何匹か入れてしまったのです。月曜日の朝、それを発見した時には、すでに何匹かの命が召されていました。現在、生き残った鯉たちが元気に泳いでいますが、子ども達や来校者、私たちが池を覗いては、それはそれはいい心持ちになっていたことを考えると、心が沈んでしまいます。とりあえずの報告です。

◇ ◇ ◇
子ども達の命を守る行動の話です。学校では、Jアラートによるミサイル発射情報が発信された場合子ども達に次のような速やかな避難行動をするよう指導しているところです。ご家庭でもご確認下さい。
○屋外にいる場合：できる限り頑丈な建物や地下（地下街や地下駅舎などの地下施設）に避難する。
○建物がない場合：物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。
○屋内にいる場合：窓から離れるか、窓のない部屋に移動する。

さらに開二小では「ダンゴムシのポーズ」として避難時の姿勢を指導しています。このポーズは、子ども達に教えてもらって下さい。

◇ ◇ ◇
次は交通安全についてです。警視庁交通部よりポスターが送られてきました。そこには、「交通安全は家庭から」として次のようにあります。

小学生の交通事故は、生活圏で多く発生しています。

ご家庭でも、お子さんと一緒に、自転車の安全な乗り方・横断歩道の正して渡り方を指導してください。

特に、交差点では必ず止まって安全確認をすること、道路には飛び出さないことを繰り返し指導してください。

学校でも折に触れ
○自転車に乗る時はヘルメットを被ること
○道路を横断する際には、運転手さんのアイコンタクトをすること。
を指導しています。子どもが出かける際には、口うるさいぐらいに声をかけてあげて下さい。

◇ ◇ ◇
最後は、第89回運動会の話です。6年生が中心となり代表委員会でまとめた、今年の運動会のスローガンは『一心不乱・以心伝心・七転八起』です。まるで中学校の体育祭で掲げる言葉のようです。各学年、実に真剣に練習に取り組んでいます。

さて、新たなる6年生の表現活動は、……【舞】……です。作り上げている子ども達の合い言葉は『make history!』です。最高学年の6年生は、開二小に、また新たな歴史を築き上げようとしています。